

1 遠距離通学の基準

国（文科省）では、スクールバス購入や遠距離通学にかかる費用を補助するに際し、つぎのような遠距離通学の基準を設けていますが、国とは別の基準を設ける自治体もあります。

種 別	基 準
国（文科省）	小学生の場合：片道 4 km 以上
栃木県芳賀町	小学生の場合：片道 3 km 以上
茨城県笠間市	小学生の場合：片道 3 km 以上
小鹿野町	区域指定

※ 芳賀町、笠間市、小鹿野町は、いずれも平成 27 年度に川島町教育委員会教育総務課が視察した団体です。

2 児童の家庭位置

別添の図面「学校区児童家庭位置図」のとおりです。

3 スクールバス運営形態

スクールバスの運営形態は、下表のような事例があります。

バス種別	行政の費用負担	運営形態	説明
専用スクールバス	有り	①行政直営型	自治体所有の車両を自治体職員が運転する。利用者の費用負担は発生しない場合が多い。
	有り	②民間委託型	自治体所有の車両を運転委託する場合と、車両と運転含めて委託するケースがある。利用者の費用負担は発生しない場合が多い。
	有り	③運営支援型	地域団体等が運営し、行政が一部補助する。利用者負担が発生することが多い。
	無し	④独立採算型	地域団体等が運営し、行政の補助はない。利用者負担が発生する。
他交通機関の活用	有り	⑤路線バス等活用型	路線バス、コミュニティバス、福祉バス等を児童の登下校に活用するケース。児童生徒は一般乗客と乗車する。

※ 文科省による国内におけるスクールバス活用状況報告から

4 スクールバス運営形態別の経費比較【概算】

取扱い注意

スクールバスの運営形態別（①行政直営型、②民間委託型）の概算経費は、つぎのようになります。

参考) スクールバス必要台数

出丸小学校区 68人(平成30年度児童数予測)÷29人/バス・台 ≒ 3台

小見野小学校区 77人(平成30年度児童数予測)÷29人/バス・台 ≒ 3台

【合計】6台

<p>①行政直営型</p>	<p>【投資的経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス購入費 6台(29人乗り)×6,800,000円(※) = 40,800,000円 ※車体価格のほか取得税、重量税も含む ・バス保管場所整備(駐車スペース、車庫等) 25,000,000円 <p>【経常的経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手労務費 ※町では、現業職を採用する方針が無いため、計上なし <p style="text-align: right;">【経費・合計】 - 円</p>
<p>②民間委託型</p> <p>※バスは自前、 運転のみ委託 の場合</p>	<p>【投資的経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス購入 6台(29人乗り)×6,800,000円(※) = 40,800,000円 ※車体価格のほか取得税、重量税も含む ・バス保管場所整備(駐車スペース、車庫等) 25,000,000円 <p>【経常的経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転委託 15,000円/人・日×220日×6人 = 19,800,000円 午前7:00~9:00、1便 午後13:00~17:00、2便 <p style="text-align: right;">【経費・合計】 85,600,000円</p>
<p>②民間委託型</p> <p>※バス、運転とも に委託の場合</p>	<p>【経常的経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス運行業務委託 30,000円/台・日×220日×6台(29人乗り) = 39,600,000円

※ 上の表の金額は、あくまで概算です。目安として捉えてください。

5 スクールバス運営形態別のメリット・デメリット

運営形態（①行政直営型、②民間委託型）によるメリット・デメリット考察すると、つぎのようになります。

①行政直営型	メリット	・バス購入費に国庫補助がある。（補助率1／2）
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資（バス購入費、バス保管場所整備費）がかかる。 ・バス保管場所を用意できないリスクもある。 ・児童数が減少すると、バスが無駄になる。 ・町では、現業職を雇用する方針がないことから、行政直営型の採用はないと考えている。
②民間委託型 ※バスは自前、 運転のみ委託の場合	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・バス購入費に国庫補助がある。（補助率1／2） ・バス業者に運転委託のため運行の安全性は確保できると考えられる。
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資（バス購入費、バス保管場所整備費等）がかかる。 ・児童数が減少すると、バスが無駄になる。
②民間委託型 ※バス、運転ともに委託の場合	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の減少を反映し、バスの大きさ、台数を適宜変えることができる。 ・バスの保管場所を用意する必要がない。 ・バス業者に運転委託のため運行の安全性は確保できると考えられる。
	デメリット	・補助がない。

6 学校運営等におけるスクールバスのメリット・デメリット

学校運営上における、スクールバスのメリット・デメリットには、他自治体の調査によれば、一般的につきのようことがあります。

メリット	<ul style="list-style-type: none">・不審者や交通事故の心配が少ない。・遠距離通学の緩和になっている。・登下校の安全指導にかかる業務の軽減になる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・始業・終業時間が制約される。・停留所までの距離が長い。・自宅から停留所までの安全確保に配慮が必要。・体力低下が心配。・放課後や学校行事に制約を受けることがある。・徒歩での社会性、自然体験の育成ができない。

※茨城県教育委員会による学校統合に関する調査から